

2022 年度
環境活動のまとめ



私たちを取り巻く環境

ならコープは、創立以来「よりよい生活は、平和とよりよい環境の中でこそ実現する」と考え、「安心・安全」を求めてさまざまな活動を展開してきました。そして1991年には、環境に対するならコープの姿勢を「環境基本政策」にまとめ、環境活動の基本的な考え方や方向性を広く内外にアピールするとともに、事業高の千分の一を環境資金に充て、着実に環境を守る取り組みを実践、前進させてきました。

その間も環境をめぐる情勢は大きく変化し、想定を上回る水害や干ばつが全世界で起こり、異常気象と温暖化が顕著になってきています。こうした「地球の危機」を回避するためには、現在わたしたちが依存している化石燃料由来のエネルギーを、CO₂を排出しない再生可能エネルギー主体に根本的に転換することが必要です。しかしロシア軍のウクライナ侵攻長期化により引き起ったエネルギー不足の不安からエネルギー価格が上昇し、再生可能エネルギーの拡大に取り組む新電力各社は事業存続の危機に陥っています。日本政府は2022年12月、GX(グリーントランスフォーメーション)基本方針を決定、次世代原発の開発・建設を推進し、既存原発の60年超の運転を認めるなどこれまでの方針を大きく転換しました。戦争により平和と環境が脅かされる中、地球温暖化は我々人間が引き起こしていることを肝に銘じ、脱炭素に向け私たちひとりひとりが環境やエネルギー問題に関心をもち、より一層行動していく必要があります。

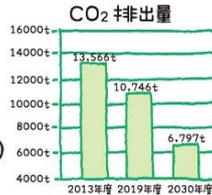
このような情勢の中、ならコープは「2030 環境ビジョン」にもとづき、持続可能な社会の実現に向けた行動を開始、エネルギー問題、食品ロス問題、プラスチック問題を中心に活動をすすめました。「2030 環境ビジョン」は、ならコープにかかわるすべての関係者のビジョンでもあり、未来への約束です。「子どもや孫のために美しい地球と自然を残したい」という純粋な想いと倫理観を広げ、事業・活動・運営の中で、プラスチックや食品ロスを減らし、CO₂削減に向け省エネ機器設備を積極導入するだけでなく、化石燃料への依存から自然エネルギーの活用へと舵を切り、新たな環境政策を評価、実践する経営で、組合員の行動の変化につながる取り組みを確実に積み上げていくことをお約束し、2022年度の環境活動についてご報告します。



ならコープの 2030 環境ビジョン

目標 1

CO₂ 排出量を
50%削減
(2013年度対比)



① 「2030年に向けた温室効果ガス削減計画」を策定し、着実に実行します。化石燃料由来のエネルギーを、CO₂を排出しない再生可能エネルギー主体に転換します。

車両のEV化

再生可能エネルギーを
1300万kWhつくる

目標 2

食品ロス 50%削減 (2019年度対比)

② 生協事業ならびに組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減をすすめます。

発注精度を高める

フードドライブ、フードバンク
活動に協力

目標 3

プラスチック容器包装排出量を 30%削減
(2018年度対比)

③ プラスチック容器包装材と資材の削減に取り組みます。

自然界で分解するトレーや
包材への切替

配達時に使用する
内掛袋を削減

目標 4

行動指標
(エシカル消費の拡大)



④ 奈良の豊かな自然と文化を守り次世代の子どもたちに引き継ぐため、環境にやさしい地域づくりをすすめます。

地元食材や生態系に配慮した商品の利用

2030 環境ビジョンの考え方 (大切にしたいこと)

奈良の豊かな自然を
次世代の子どもたちに残す

大量生産・大量消費・大量廃棄
使い捨て文化からの脱却

エネルギー問題・ごみ問題
(食品ロス・海洋プラスチック)
の解決

国連が提唱する持続可能な
開発目標 (SDGs) の具体化



2050年にゼロエミッションの実現



2030 環境ビジョン目標に対する進捗状況

	項目	単位	基準年	基準年 実績	目標 2030年度	実績 2021年度	実績 2022年度	目標 2022年度	目標達成 率
地球温暖化対策	「減らす」 CO ₂ 排出量50%削減 (2050年実質ゼロ)	t-CO ₂	2013	13,566	6,783	9,555	8,887	9,200	103.5%
	「つくる」 再生可能エネルギー発電量	千kWh	2013	570	13,000	5,507	6,458	7,000	92.3%
	「減らす」 電気使用量削減	千kWh	2013	20,037	15,000	18,303	17,918	16,964	94.7%
	「減らす」 ならコープでんきCO ₂ 排出量係数	kg-CO ₂	2013	0.522	0.170	0.270	0.250	0.277	110.8%
	組合員が「つくる」 再生可能エネルギー	千kWh	2013	0.00	2,000	368	568	700	81.1%
	「自立する」「減らす」 ならコープでんき利用組合員を増やし、 家庭から排出するCO ₂ 排出量削減	供給地点	2013	0	12,000	4,982	4,791	6,500	73.7%
	「減らす」 奈良県の一人名あたりCO ₂ 排出量の削減	t-CO ₂	2013	6,542	4,500	未集計	未集計	目標を 持たない	-
	廃棄物削減	事業で排出する食品廃棄物50%削減	kg	2019	409,573	204,786	360,914	350,192	315,166
事業で使用するプラスチック容器包装使用量を30%削減		kg	2018	209,818	146,872	222,845	195,532	220,000	112.5%

《基準年》

CO₂排出量削減(2013年)、食品ロス削減(2019年)、プラスチック容器包装削減(2018年)

《対象範囲》

① 温室効果ガス排出量、エネルギー使用量(電気・燃料・ガスなど)

ならコープ本体のみ(無店舗事業・店舗事業の配送委託業者の燃料使用量含む)

② 再生可能エネルギー発電量

ならコープ、(株)CWS(つくばね発電所出資比率にて算出)、(株)コープエナジーなら

③ 事業で排出する食品ロス

ならコープ本体事業(無店舗事業・宅配事業・店舗事業・物流センター・農産加工センター)

※店舗等テナント含まず

④ 事業で使用する容器包装使用量

容器包装リサイクル法の適用範囲のならコープ本体事業の容器包装

※大手電力会社供給分のCO₂排出係数は、全国の生協が加盟する日本生活協同組合連合会で定められた統一排出係数を使用しています。(株)CWS(ならコープでんき)供給分は、電気事業者別排出係数(令和4年度実績)を使用しています。

コープSDGs 行動宣言

私たち生協は、SDGs(持続可能な開発目標)に貢献することを約束(コミット)します。

私たちは、「生協の21世紀理念(1997年総会決定)」のもと、助け合いの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会の実現をめざし、様々な取り組みを進めてきました。誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。私たちは、あらためて持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを、「SDGs行動宣言」としてまとめました。

私たちは、以下の7つの取り組みをつうじて、世界の人々とともにSDGsを実現していきます。

持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地球資源へ思いをはせ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。

《関連するSDGsの主たる目標》

 目標12(つくる責任、つかう責任)
持続可能な生産消費形態を確保する。

《関連するSDGsの目標》



地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標(2030年環境目標)を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。

《関連するSDGsの主たる目標》

 目標7(エネルギー)
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。
 目標13(気候変動)
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。

《関連するSDGsの主たる目標》

 目標3(保健)
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

《関連するSDGsの目標》



世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

私たちは、誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、子ども食堂やフードバンク・フードドライブなどの取り組みを進めます。

《関連するSDGsの主たる目標》

 目標1(貧困をなくそう)
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。

《関連するSDGsの目標》



誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します

私たちは、誰一人取り残さず、安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割発揮を進めます。

《関連するSDGsの主たる目標》

 目標11(持続可能な都市)
包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

《関連するSDGsの目標》



ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいを持って働き続けられる生協づくりを進めます。

《関連するSDGsの主たる目標》

 目標5(ジェンダー)
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。

《関連するSDGsの目標》



核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。

《関連するSDGsの主たる目標》

 目標16(平和)
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

《関連するSDGsの目標》



1. 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及する取り組み

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して意欲的な温室効果ガス削減目標(2030年環境目標)を掲げ、省エネルギーの促進と再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売拡大により、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。

《関連するSDGsの主たる目標》



目標7(エネルギー)

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。

目標13(気候変動)

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

(1) 温室効果ガス削減の取り組み

2022年度エネルギー使用量

項目	実績	計画	計画差	計画比	前年	前年差	前年比
電気(太陽光自家消費)(kWh)	1,214,609	1,195,249	79,354	107.0%	919,897	300,766	132.9%
電気(kWh)	16,704,172	15,558,751	1,145,421	93.1%	17,989,989	-685,817	96.1%
A重油(L)	28,045	40,002	-11,957	142.6%	32,697	-4,652	85.8%
ガソリン(L)	108,950	122,996	-14,046	112.9%	92,612	16,338	117.6%
軽油(L)	1,672,072	1,712,442	-40,370	102.4%	1,678,467	-6,395	99.6%
BDF(L)	3,100	17,000	-13,900	548.4%	15,820	-12,720	19.6%
水素(m ³)	44	36	8	-	29.5	21	-
車両LPG(L)	-	-	-	-	-	-	-
都市ガス(m ³)	27,677	24,580	3,097	88.8%	29,459	-1,776	94.0%
事業所LPG(m ³)	133	145	-12	109.0%	131	2	101.8%

(表1)

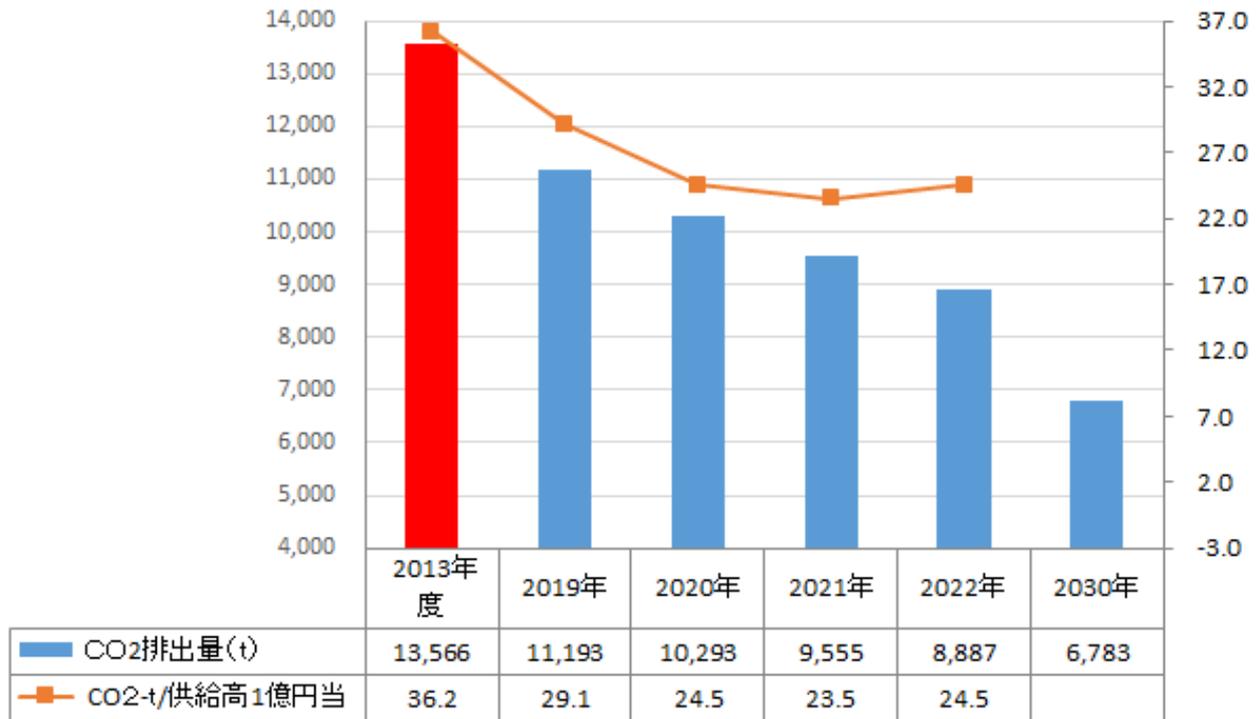
2022年度CO2排出量

単位(t-CO₂)

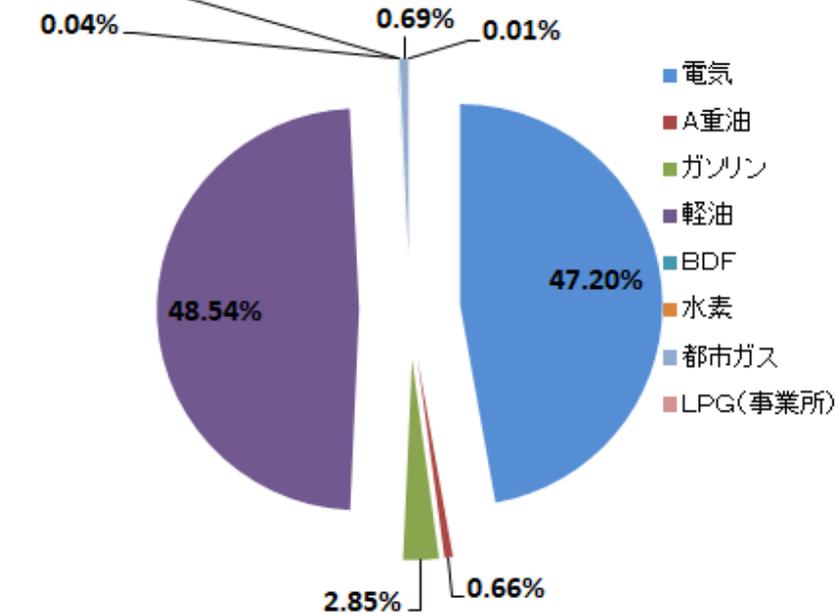
項目	係数	実績	計画	計画差	計画比	前年	前年差	前年比
電気(太陽光自家消費)(kWh)	-	-	-	-	-	-	-	-
電気	0.250	4,195	4,310	-115	102.7%	4,834	-639	86.8%
A重油	2.71	59	108	-50	184.4%	89	-30	66.4%
ガソリン	2.32	253	286	-33	112.9%	215	38	117.6%
軽油	2.62	4,314	4,418	-104	102.4%	4,330	-16	99.6%
BDF	1.29	4	22	-18	548.4%	20	-16	19.6%
水素	2.34	0	0	0	-	0	0	-
車両LPG	1.68	-	-	-	-	-	-	-
都市ガス	2.11	62	55	7	88.8%	66	-4	94.0%
事業所LPG	6.09	1	1	-0	109.0%	1	0	101.8%
CO ₂ 排出量		8,887	9,200	-312	103.5%	9,555	-668	93.0%

(表2)

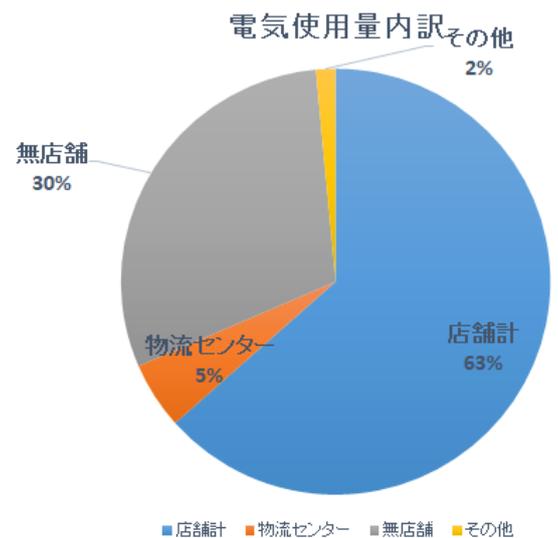
CO₂排出量の推移と1億円あたり排出量(t-CO₂)



2022年度燃料別CO₂排出量比率



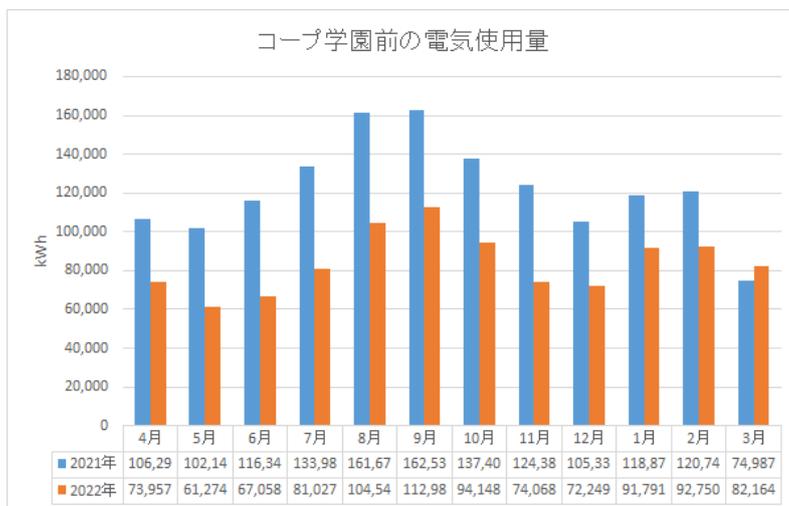
(左図1 右図2)



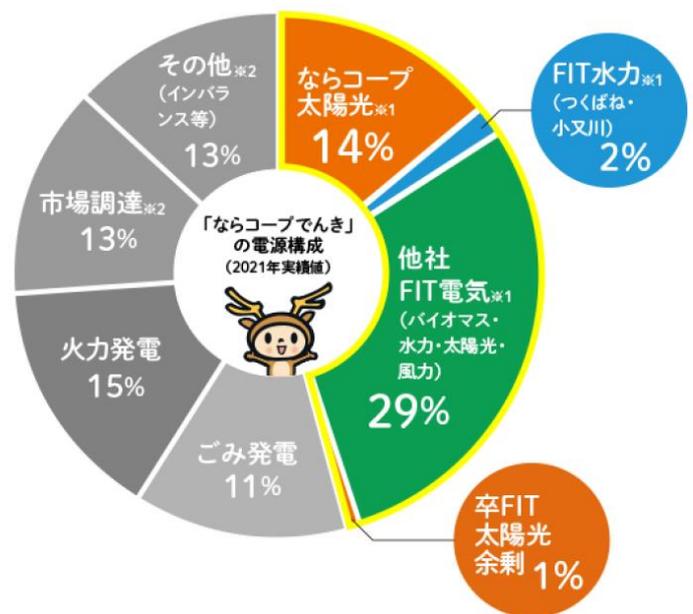
地球温暖化防止自主行動計画にもとづき温室効果ガス削減に取り組みました。2022 年度CO₂総排出量は 8,887t-CO₂(計画 9,200t-CO₂、計画比 103.5%、前年比 93.0%)と温室効果ガス削減を実現することができました。(表2)。

① 電気使用量は 17,918 千 kWh(計画 16,694 千 kWh、計画比 93.1%、前年 18,303 千 kWh、前年比 97.9%)となりました。2022 年 10 月 9 日(日)に発生したサイバーインシデント¹により無店舗事業では 7 週間にわたり配達ができず商品のセットラインなどの稼働を停止したことが影響し、電気使用量が減少しています。省エネの取り組みとしては改装時に店舗の冷蔵・冷凍ショーケースなどの省エネをすすめてきたこともあり、電気使用量の削減ができています。また、電力事業を担う(株)CWSの自前再生エネ調達量の増加と電力事業提携先の電源改善により、ならコープでんきのCO₂排出係数は 0.250kg-CO₂(前年 0.277 kg-CO₂、前年比 90.2%)と低減できました。電源のCO₂排出係数低減は難しいため、電気使用量の削減に向けた積極的な取り組みが重要となっています。

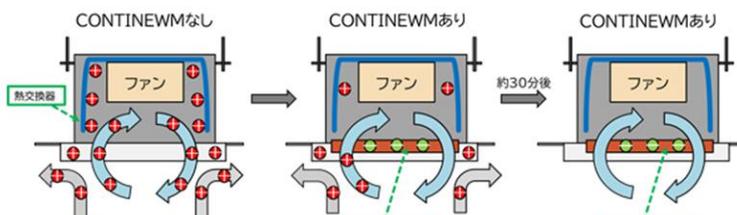
1) 店舗の省エネの取り組みでは、コープ学園前のリニューアル(2022 年 3 月)にあわせ冷蔵・冷凍ショーケース、LED 照明、空調を最新式の省エネ機器に更新。更新した電気設備の 28.7%の省エネ化の試みが計画通りに進み、太陽光発電の自家消費と合わせ、32.0%の削減につながっています。2021 年度にコープいまごに実験導入した冷蔵・冷凍ショーケースおよび空調に設置する省エネ機器コンティニュームは 2022 年度には、コープなんごう(2022 年 6 月)、コープ朱雀(2023 年 3 月)、コープ学園前(2023 年 3 月)、コープみみなし



コープ学園前の電気使用量の前年比較



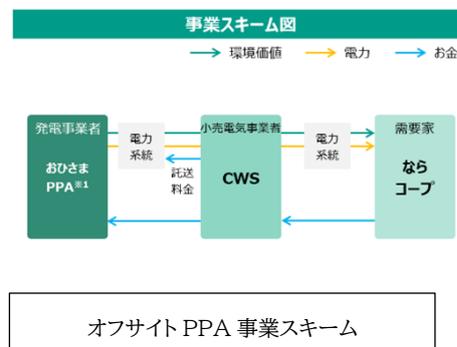
ならコープでんき電源構成 (2021年4月～2022年3月)



省エネ機器コンティニュームの節電イメージ

(2023年3月)に追加設置、導入店舗の電力量の2%削減を見込みます。また、コープ七条には空調自動制御システムであるエナッジ air を実験導入(2023年2月)、電力量の4%削減を見込みます。運用面では冬季の飲料ケースの冷氣送風をOFFにすることや農産品のうち冷蔵不要な商品をひとまとめに陳列し、ショーケースの電源をOFFにするなど省エネに努めました。

- 2) 太陽光発電を自家消費することで購入する電力の削減につながっています。2022年3月に発電を開始した旧農産加工センターの太陽光発電は環境省「令和3年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」を活用(補助金額4,967,000円(補助率1/3))し、協力企業(おひさまPPA株式会社)²が設置、旧農産加工センターは他企業へ賃貸中であることから、発電した電気は旧農産加工センターでは使用せず、送電線にて託送して物流センターで使用するオフサイトPPA³という新しい事業モデルで導入、環境省の事例共有セミナーで導入事例を報告するなど脱炭素に取り組む企業や団体から注目を集めています。



- 3) ならコープ全体では、エコオフィス手順を策定し、エアコンの設定温度を基本冷房 26℃以上(オフィスは 28℃以上)、暖房 20℃以下として省エネに努めました。組合員との啓発行動では七夕の7月7日、ディアーズコープいこまにて地域の環境団体(NPO 法人 奈良ストップ温暖化の会、(一財)再エネ協同基金)とソーラーランタン作りと点灯式を開催。短冊に地球温暖化防止についての願いを書き、店舗外部照明を消灯して子どもたちが作ったソーラーランタンを点灯し、参加者と楽しみながら地球温暖化について考える機会を提供しました。



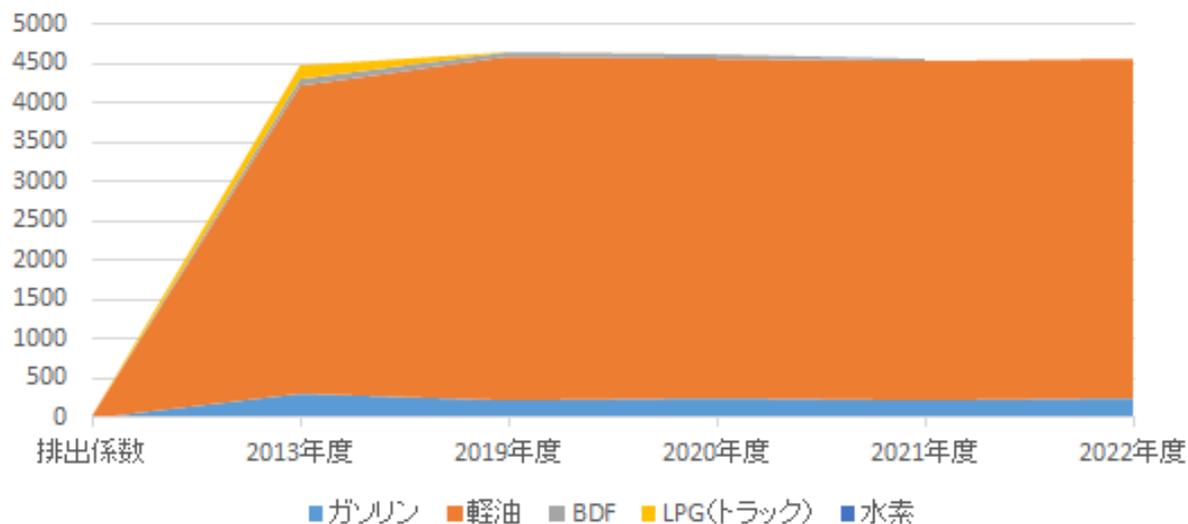
ソーラーランタンづくり
(ディアースコープいこま)

② 車両燃料使用量

	単位	2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ガソリン	ℓ	136,606	99,975	100,076	92,612	108,950
軽油	ℓ	1,515,189	1,687,436	1,679,369	1,678,467	1,672,072
BDF	ℓ	55,834	54,048	36,351	15,820	3,100
LPG(トラック)	m ³	103,683	3,254	2,649	0	0
水素	m ³				24	44

(表3)

燃料使用によるCO₂排出量(kg-CO₂)



(図 3)

1) ガソリン使用量は108,950L(前年 92,614L、前年比 117.6%)、軽油使用量は1,672,072L(前年 1,678,469L、前年比 99.6%)となりました。バイオディーゼル燃料⁴(BDF 燃料)使用車両のガソリンや軽油使用トラックへの入れ替えを行っており、2022年12月に全 BDF 燃料車両の入れ替えを完了したこと、コロナ禍での営業活動も順次再開したことなど燃料使用量の増加要因がある中、前年並みで推移しています。2015年度よりすすめているEV化によるガソリン、軽油削減の継続ができています。



左:トヨタ MIRAI 右:日産 リーフ

2) 化石燃料由来の燃料使用量削減と、災害等発生時に自治体などの要請に応じて必要な場所に電気を移動させることを目的に導入している環境配慮型車両(水素自動車・電気自動車・プラグインハイブリッド車)は合計 55 台になりました。配送用軽トラック ELEMO(HW-ELECTRO 社)は満充電で約 200km 走行できることから店舗での買い物代行サー



HW-ELECTRO ELEMO

ビス車両に実験導入しました。海外製造車両であることから運転に慣れが必要であり、拡大については慎重に判断していきます。トラックタイプの配送用EV(日野自動車_デュトロEV(2022年販売開始)、三菱ふそうトラック・バス(株)新型eキャンター(2023年発売予定)、いすゞ自動車(株)ELF ev(2023年販売予定)など)の情報収集を継続し、価格・使いやすさなど調査のうえ導入検討します。

③ ガス使用量

単位(m³)

	2013年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
都市ガス	69,551	53,898	44,834	36,039	29,453	27,677
前年比		77.5%	83.2%	80.4%	81.7%	94.0%
LPガス	1,102	148	142	136	131	133
前年比		13.4%	95.9%	95.7%	96.4%	101.5%

(表 4)

都市ガス使用量は前年比 94.0%、LP ガス使用量は前年比 101.5%となりました(表 4)。ガス空調器(GHP)を使用していたコープたかだ閉店(2019年9月)と、コープみみなしのガス空調機から電気空調機(EHP)への転換(2021年2月)により使用量は減少しています。化石燃料由来の都市ガスから、再生可能エネルギー中心のならコープでんきを利用することで環境負荷軽減につなげています。

④ フロン排出抑制法への対応

2015年4月施行のフロン排出抑制法に基づき、ならコープでは簡易点検や定期点検を実施しました。ならコープ全体の年間漏洩量は420 t-CO₂(前年365t-CO₂)でした。物流センターの冷凍蓄冷剤凍結庫からの漏洩があり修理を行いました。年間のフロン類の漏洩量が1,000t-CO₂以下となることから国への報告義務はありません。

(1) 再生可能エネルギー拡大の取り組み

ならコープ発電施設一覧

発電所名	設置年月	事業者名	発電規模 (kW)	事業内容	投資金額 (千円)	累計売電収益 (千円)	投資回収率	2022年度発電量 (kWh)	2021年度発電量 (kWh)	前年比
西奈良支所	2007年12月	ならコープ	20	自家消費	¥14,426	¥2,261	-	21,623	19,607	110.3%
物流センター東棟・西棟	2012年6月	ならコープ	829	FIT	¥225,303	¥316,385	140.4%	834,284	885,074	94.3%
物流センター北棟・田原本支所	2014年10月	ならコープ	273	FIT	¥70,231	¥98,510	140.3%	249,194	300,210	83.0%
吉野事業所	2016年8月	ならコープ	890	FIT	¥238,295	¥184,468	77.4%	838,635	868,515	96.6%
吉野事業所	2016年8月	ならコープ	14	自家消費	-	¥1,054	-	15,684	11,815	132.7%
本部事業棟	2016年12月	ならコープ	49	自家消費	¥17,400	¥7,349	42.2%	66,938	65,060	102.9%
コープ真美ヶ丘	2018年6月	ならコープ	66	自家消費	¥14,178	¥6,611	46.6%	64,599	66,945	96.5%
エコSUNシャイン	2012年11月	(株)CEN	95	FIT	¥30,472	¥42,080	138.1%	104,325	96,818	107.8%
桜井支所	2015年9月	(株)CEN	53	FIT	¥15,908	¥14,344	90.2%	60,820	57,357	106.0%
西奈良支所	2015年9月	(株)CEN	53	FIT	¥15,885	¥14,912	93.9%	63,826	55,329	115.4%
コープたつたがわ	2015年9月	(株)CEN	365	FIT	¥99,367	¥100,890	101.5%	430,409	405,316	106.2%
コープみみなし	2015年10月	(株)CEN	248	FIT	¥67,314	¥66,552	98.9%	277,453	280,594	98.9%
コープ朱雀	2015年11月	(株)CEN	256	FIT	¥72,163	¥71,970	99.7%	314,990	294,470	107.0%
京都綾部(関西丸和姉)	2016年10月	(株)CEN	301	FIT	¥60,200	¥45,482	75.6%	256,870	271,787	94.5%
コープなんごう	2017年1月	(株)CEN	61	FIT	¥18,224	¥9,580	52.6%	66,751	61,058	109.3%
コープなんごう	2017年2月	(株)CEN	308	自家消費	¥73,924	¥36,740	49.7%	359,698	341,257	105.4%
奈良五條(御真秀ロジステクス)	2017年5月	(株)CEN	308	FIT	¥61,600	¥45,218	73.4%	329,167	311,747	105.6%
奈良桜井(翼製粉姉)	2017年11月	(株)CEN	238	FIT	¥48,000	¥39,593	82.5%	207,109	222,707	93.0%
コープ七条	2018年2月	(株)CEN	314	自家消費	¥43,500	¥35,189	80.9%	351,020	345,516	101.6%
大阪門真(光陽商事姉)	2019年6月	(株)CEN	90	FIT	¥14,200	¥6,843	48.2%	103,388	100,752	102.6%
コープまご	2020年2月	(株)CEN	108	自家消費	¥16,500	¥5,674	34.4%	105,053	103,338	101.7%
こころ発電所	2020年2月	(株)CEN	5	自家消費	¥1,800	¥351	19.5%	6,450	6,425	100.4%
かわかみらいふ発電所	2020年3月	(株)CEN	5	自家消費	¥1,800	¥300	16.7%	5,768	5,275	109.3%
ならコープ下市ステーション	2021年4月	(株)CEN	20	自家消費	¥7,500	¥647	8.6%	17,902	4,342	412.3%
コープ学園前	2022年3月	(株)CEN	249	自家消費	¥32,000	¥5,510	17.2%	285,968	25,358	1127.7%
天理市立南中学校(自治体PPA)	2023年3月	(株)CEN	56	自家消費	¥10,644		0.0%	2,370	0	-
旧農産加工センター	2022年3月	おひさまPPA姉	131	自家消費	¥15,090	¥950	6.3%	122,305	0	-
小又川発電所(小水力)	2020年6月	(株)CEN	180	FIT	¥320,000	¥33,018	10.3%	841,869	129,226	651.5%
【参考】つくばね発電所(小水力)	2017年7月	東吉野水力発電姉	82	FIT		¥0		440,219	491,761	89.5%
合計			5,666		¥1,605,924	¥1,192,482	74.3%	6,844,685	5,827,659	117.5%
ならコープグループ計			5,485		¥1,590,834	¥1,191,532	74.9%	6,458,249	5,532,602	116.7%
				FIT	¥1,357,162	¥1,089,845	80.3%	¥5,419,309	¥4,832,720	112.1%
				自家消費	¥248,762	¥102,637	41.3%	¥1,425,376	¥994,939	143.3%

* 吉野発電所の自家消費の投資金額は吉野発電所FITに含まれています。

* ならコープグループ計は東吉野水力発電姉の姉CWS出資比率40%でつくばね発電所発電規模・発電量を算出(売電収益は計算外)

* 自家消費の売電収益はならコープが設置した施設姉CWSが供給する高圧電力料金平均単価×使用電力量、姉コープエナジーならが設置した施設姉契約単価で計算。

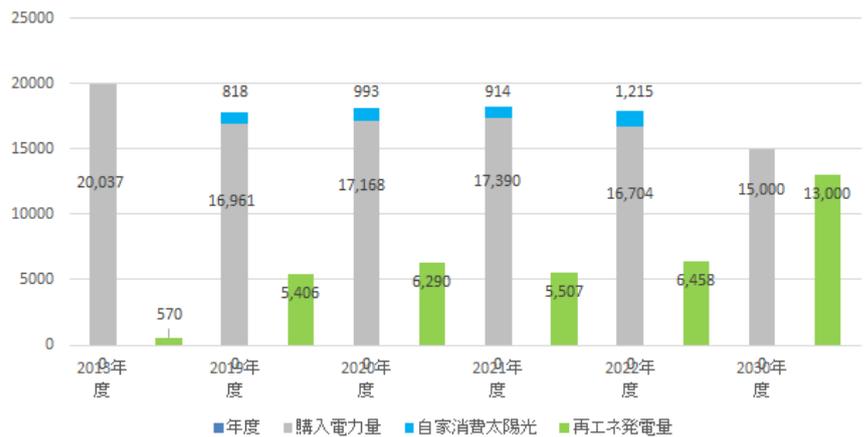
(表5)

① 再生可能エネルギーを「つくる」取り組み

再生可能エネルギー発電量は
6,458 千 kWh(計画 7,000 千 kWh、計画比 92.2%、前年 5,532 千 kWh、前年比 116.7%)、発電容量は 5,485kW (前年 5,430kW、前年比101.0%)となりました。2021 年度末に

発電を開始したコープ学園前、旧農産加工センターの太陽光発電、下北山村の小又川水力発電所が年間通じて発電したこともあり発電量が増加しました。

電気使用量と再エネ発電量(kWh)



1) 奈良県最南端の村である下北山村と姉コープエナジーなら⁵が協働して開発した小又川小水力発電所は 2021 年 3 月、大雨による斜面の崩壊により村道が崩落、村道下に埋設した小又川発電所導水管もともに崩落し、発電を停止しましたが 2021 年 12 月に復旧し発電を再開後は順調に発電しています。気候変動の影響により、短時間強雨(滝のように降る雨)が増加、通常の降水の日数が減少しており、利用できる水量の確保がむづかしくなっていますが下北山村在住の方の協力により取水堰堤の落ち

葉等の除去回数を増やし、発電量の確保に取り組んでいます。

- 2) 奈良県南部の吉野郡下市町の南都銀行下市支店が閉店、閉店後の施設の有効活用について、下市町・南都銀行・ならコープ3者で協議し、住み続けられる地域づくりを目的とした事業所「ならコープ下市ステーション(2021年4月開設)」に太陽光発電(19.4kW)と蓄電池(4kWh)、EVのバッテリーから施設に給電できるV2H(Vehicle to Home)⁶を設置しました。災害時に地域で活用するエネルギーの「自立」に貢献する取り組みが進んでいます。同事業所には、奈良県の補助金「令和3年度地域エネルギー資源活用支援事業」を活用して一般財団法人再エネ協同基金が薪ストーブを設置し2021年12月より運用しています。薪ストーブの燃料である薪は下市町の林業業者から購入(奈良県及び京都府南部の広葉樹が中心)し使用しています。2023年2月には下市ステーション移動店舗に購入に来られた組合員と一緒に薪割り体験会を開催しました。下市ステーションでは、ならコープグループの環境の取り組みの発信拠点として活用する準備がすすんでいます。



太陽光発電とV2H(下市ステーション)

② 再生可能エネルギーを利用するならコープでんきの取り組み

ならコープでんき供給地点数の推移

ID	項目	2016年度末	2017年度末	2018年度末	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末
1	供給地点数(計画)	4,000	6,700	10,000	12,000	7,000	7,000	7,000
2	供給地点数	3,437	4,529	4,823	4,710	4,714	4,982	4,791
3	供給地点数(前年差)	-	1,092	294	-113	4	268	-191
4	供給地点数(計画差)	-345	-1,800	-4,491	-6,155	-1,155	-1,155	-1,155
5	供給地点数(達成率)	85.9%	67.6%	48.2%	39.3%	67.3%	71.2%	68.4%
6	組合員数	269,972	274,149	275,434	276,394	278,097	279,117	
7	組合員数に対する契約件数比率	1.3%	1.7%	1.8%	1.7%	1.7%	1.8%	

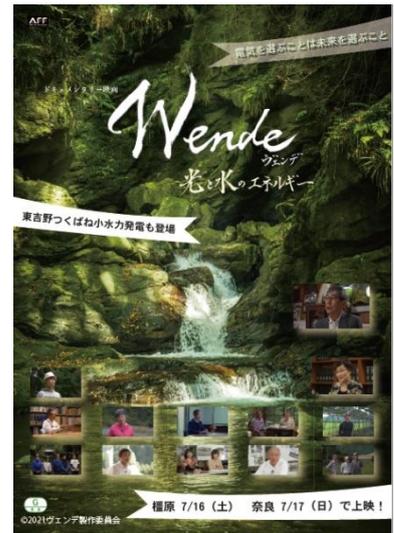
(表6)

- 1) ならコープでんき供給地点数は4,791地点(計画7,000地点、前年4,982地点、計画比68.4%、前年比96.2%、前年差191地点)となりました。ロシア軍によるウクライナ侵攻の影響によりエネルギー価格が高騰、再生可能エネルギー拡大に取り組む新電力各社は事業継続が困難な状況に陥りました。再エネ社会への転換が遅れ、脱炭素化の動きにも逆行しかねない事態の改善に向けてパワーシフトキャンペーン運営委員会が取り組む「大手電力会社との不平等な競争状況や電力市場制度の改善を求める署名」に参加した署名運動では、1,589筆をあつめ事務局に送付しました。12月6日、事務局は5,127筆の署名を経済産業省に提出、その影響か公正取引委員会が12月14日に大手電力会社と新電力会社との競争環境を調査する報道がありました。ならコープでんきは、2023年4月に値上げすることを契約者にお知らせしたこともあり、2023年3月～4月にかけての解約申し出が約600件と供給地点数の減少が見込まれ、ならコープでんき普及には困難な状況が続きます



がエネルギーの地産地消に粘り強く取り組みます。

- 2) 映画ヴェンデ実行委員会主催の映画会「ヴェンデ～光と水のエネルギー～」に協賛しました。自然のエネルギーを活用する暮らし方やエネルギーの在り方について参加者と考える良い機会になりました。奈良県文化会館と橿原文化会館の2会場で開催され、延べ146人が参加しました。
- 3) 12月～3月までの期間、冬季の電力需要ひっ迫に対し国の補助プログラムに参加、「ならコープでんき節電アクション」を実施し、ならコープでんき利用組合員に広く周知しました。参加申し込みの特典として、節電に成功した参加者には利用代金から2,000円の値引きを実施しました。参加者は1,287人(1,355供給地点)、「節電アクションに参加したことで節電を意識し、楽しく節電できました。」との声もあり、エネルギーを大切に使う暮らし方を考える機会になりました。
- 4) ㈱CWSが提供するならコープでんきは、太陽光発電で発電した電気を一定価格で買い取る制度である固定価格買取制度(以下FIT制度)の買取期間が終了する組合員からの買取方針を確定し、2019年11月から組合員宅屋根の太陽光発電由来の電気の買取を開始しています。2022年度末には組合員230人(発電容量887.85kW、買取発電量568,232kWh)が「ならコープでんき」の生産者となって「小さなみんなの発電所」を実現しており、ならコープでんき電源構成の1%を占めるようになりました。少しずつですが奈良県産エネルギーが増加しています。
- 5) 2022年12月、事業活動で使用する電力を再生可能エネルギーで賄う「再エネ100宣言 RE Action⁷」に登録(大阪いずみ市民生活協同組合、青森県民生活協同組合に続き3生協目)、2035年度に全事業活動で使用する電力を再エネで運営することを宣言しました。2023年度には本部の電力を再エネ100%で運営します。



映画「ヴェンデ～光と水のエネルギー～」

節電アクション2022冬 参加者募集中!

「ならコープでんき」をお使いのみなさま。今冬はエネルギー需給ひっ迫が予測されています。「ならコープでんき節電アクション2022冬」に参加申し込みいただき、節電にご協力をお願いします。

特典1

★参加申し込み特典 (参加申し込み 2022年11月30日まで)
ご利用代金から**2,000円値引き** (ご利用1地点につき1回限り)

特典2

★節電アクション特典 (2022年12月～2023年3月実施予定)
節電できた電力量に応じて値引き
(詳細は参加お申し込み受付後にご案内します)

参加お申し込みはこちら

ならコープでんき
http://denki.cwsnara.co.jp/



※ならコープコールセンターへの電話申し込みも可能です。

電話での参加申し込みもできます

コールセンター0120-577-039
携帯電話からは0743-68-3100
(通話料は組合員ご負担)
月～金 8:30～21:00 土 8:30～18:00

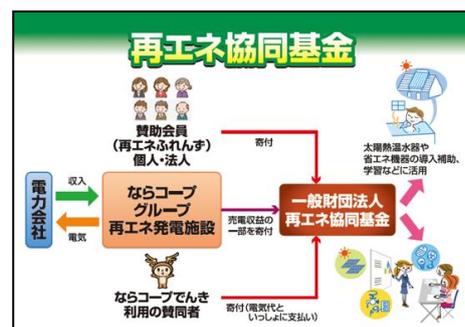
ならコープでんき節電アクション



(再エネ100宣言 RE Action)

6) 再エネや省エネの普及啓発に取り組む(一財)再エネ協同基金の活動

2016年、ならコープが太陽光発電の売電収益の一部を寄付して創設し、その基金を管理運営している(一財)再エネ協同基金は7年目の事業年度を終了しました。学習事業には22企画で延べ456人(前年14企画、延べ145人)が参加、再生可能エネルギーや省エネルギーの利活用機器導入に対する助成事業では46人に1,371,000円(前年34人1,070,000円)を助成することができました。これらの取り組みを応援する仲間である賛助会員(再エネふれんず)は昨年から50人増加し793人(個人766人、団体27人)となりました。



(一財)再エネ協同基金スキーム図)

項目	申請件数	助成金額	予算枠	残	
太陽熱温水器	40,000	0	120,000	120,000	
ペレットストーブ・薪ストーブ	40,000	2	80,000	120,000	40,000
太陽光発電 1kWあたり	10,000	7	210,000		
住宅用定置型蓄電池 1kWあたり	10,000	12	473,000	1,950,000	1,022,000
断熱窓		11	245,000		
冷蔵庫、エアコンの買替	5,000	2	10,000	100,000	40,000
節水型トイレ 一台につき	10,000	5	50,000		
電動アシスト付き自転車	5,000	1	5,000	50,000	45,000
発電事業	50,000	2	100,000		
EV自動車購入	50,000	3	148,000	900,000	602,000
V2Hシステム導入	100,000	1	50,000		
調査研究・学習活動	50,000	0	0	200,000	200,000
合計	46	1,371,000	3,440,000	2,069,000	

(表7)

2. 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直す取り組み

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の双方を促進することで、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地球資源に思いを馳せ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に対する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。

《関連するSDGsの主たる目標》



目標12(つくる責任、つかう責任)
持続可能な生産消費形態を確保する。

《関連するSDGsの目標》



(1) 豊かな地域を作る取り組み

① 地元食材を利用する取り組み

「食べる“なら”大和」では地産地消商品のブランドとして、JAならけん とならコープが県内農産物や、県内農産物を主原料とした加工食品の案内と一緒に取り組み、地域経済に貢献しています。

- 1) ならコープ店舗では、県内産農産物食材の直営販売を行っています。生産者自らが店頭で商品陳列を実施することで地域内消費につながっています。
- 2) 2016年5月に設立された子会社(株)ハートフルコープよしのは、農産集荷事業をはじめ、天然の湧き水を使用した宅配水事業(奈良桜よしの天然水)や水耕栽培事業(フリルレタス)を展開しています。「桜よしの天然水8Lボトル」1点利用につき1円を積み立て、奈良県環境県民フォーラム⁸に寄付することで奈良県内をフィールドに活動する環境保全活動に取り組む団体を支援し、奈良県の環境保全につながっています。2022年度分として49,977円(前年64,546円)を寄付する予定です。また、宅配水ボトルを自社工場で製造することで輸送によるCO₂削減につながっています。水耕栽培のフリルレタスは夏期の熱暑、大雨、台風など気象条件が安定しない中、安定価格で供給することが出来ました。(株)ハートフルコープよしのは障がい者総合支援法に基づく就労機会を提供する施設として運営され、障がい者の雇用にもつながっています。
- 3) 2022年度には五條市にコープの農場を整備、白菜やキュウリなどの農産物を生産する産直生産者から指導を受け、とうもろこし、サツマイモを生産し、店舗や無店舗事業で組合員にお届けしました。食料生産、福祉、地域経済・雇用・エネルギー(発電・生ごみ)をテーマに事業活動を行うとともに組合員や職員の学習の場として運営します。コープの農場の運営は2024年をめどに(株)ハートフルコープよしのが運営し、農業生産を開始する予定です。



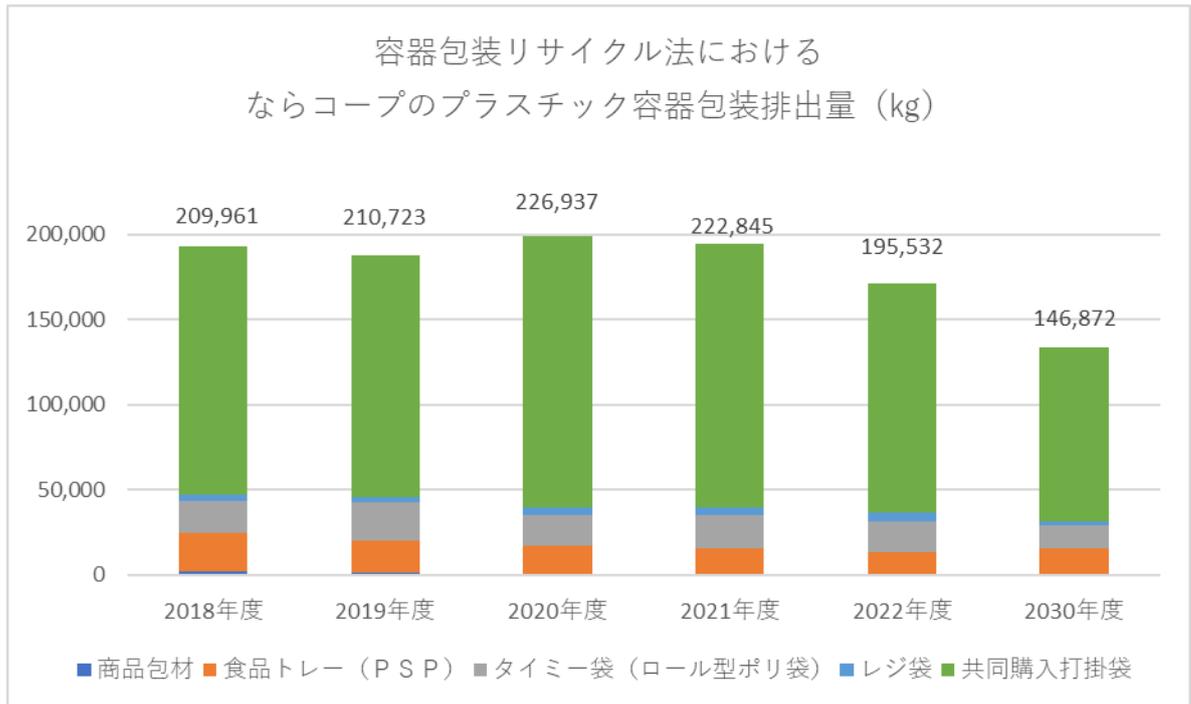
な～らちゃん
(奈良県エコキャラクター)



(2) 事業活動や組合員活動によるプラスチック容器包装削減の取り組み

区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2030年度
商品包材	2,136	1,709	3,154	2,257	2,257	1,495
食品トレー (PSP)	22,584	18,597	16,950	15,959	13,371	15,809
タイミー袋 (ロール型ポリ袋)	18,846	22,429	18,516	19,017	17,981	13,192
農産加工センター包材他	17,039	22,445	24,359	26,268	21,004	11,927
レジ袋	3,289	3,320	4,241	4,895.77	5,093	2,302
共同購入打掛袋	145,924	142,022	159,522	154,447	134,989	102,147
合計	209,961	210,723	226,937	222,845	195,532	146,872

(表 8)



(図 4)

① 事業活動におけるプラスチック容器包装削減の取り組み

1) 事業活動におけるプラスチック容器包装排出量は 195,532kg (商品包材・共同購入打掛袋(コープきんき使用分)が未集計のため暫定集計(前年 222,845kg(前年差 27,313 kg、前年比 87.8%)となりました。鶏肉類のノントレー包装展開など食品トレー削減を行いプラスチック容器包装削減につなげています。導入当初は買い控えにつながる心配もありましたが帰宅後の冷凍庫への保管も簡易になり、家庭ごみの削減にもつながり利用への影響は出ていません。ならコープのプラスチック容器包装排出量の約 70%は無店舗事業の打掛袋ですが衛生面、利便性、コスト面で打掛袋に代わる包材を採用するのは現時点では困難な状況です。ただ 2024 年に開設予定の物流センタードライ棟(仮称)開設時には打掛袋を使用しないセット方法を検討しており、実現できればプラスチック容器包装の 30%程度が削減できる予定です。



ノントレー商品(コープ七条)

- 2) 2022 年度にコープみみなしで実験導入した、ポリエチレン製傘袋を使用しない「傘の滴とり機」を全店舗に導入し、プラスチック包装削減につなげています。雨水の店内侵入による転倒などを心配しましたが問題なく運用できています。
- 3) 2023 年 1 月、店舗レジで配布するスプーン(木製)、ストロー(紙製)、紙袋(商品 1 点につき 1 枚は無料、2 枚目以降有料)を有料化しました。 unnecessary プラスチックカトラリー配布抑制につながりました。



カトラリー類有料化のお知らせ

- 4) コープきんき事業連合や全国の生協と協同した取り組みでは、日本生活協同組合連合会(以下 日本生協連)が 2019 年 6 月、プラスチック包材へのコープ商品対応方針を策定しました。「コープ商品開発においてマイクロプラスチック⁹を使用しないこと」「2030 年までに、容器包材のプラスチック重量ベースで 2016 年対比 25%削減すること」「2030 年までに、再生プラスチックと植物由来素材プラスチックの活用を進め、使用率を合計で 50%に引き上げること」「2030 年までに、飲料等ストローはプラスチック以外の素材に 100%切り替えること」を決定し、プラスチック包材における環境負荷を減らす取り組み「リデュース(減らす)」「リユース(繰り返し利用)」「リサイクル(再資源化・再生)」「バイオマス(植物性由来素材の使用)」の 4 つの視点で取り組んでいます。ならコープもこれらの取り組みに参加、



環境配慮型商品の供給を積極的に行っています。現在、容器包装にプラスチックを使用しているコープ商品は約 4,700 品目ありますが、再生プラスチック、植物由来プラスチック容器を使用した商品を拡大し、2022 年度末では 779 品目にまで拡大しています。全国で展開するミックスキャロットは紙パック化により 27tのプラスチック容器包装削減につながっています。また、環境や社会に配慮した主原料を使った商品に共通のロゴマークを付けてシリーズ化した商品「コープサステナブル」を 4 つのテーマ(海の豊かさを守る、森の資源を守る、organic、リサイクル材使用)で展開しています。こうした商品を選んで使う「エシカル消費」が「持続可能(サステナブル)な」社会実現につながります。ならコープでは 2022 年 10 月~11 月にかけて「組合



員のつどい」を開催し組合員とエシカル消費の学習をすすめました。

② 組合員や職員とすすめたプラスチック削減の取り組み

1) ならコープの環境・エネルギーに関わる事業及び活動を審議し、具体化をすすめている環境・エネルギー政策協議会は「蜜ろうラップづくりワークショップ」を開催し、プラスチック容器包装削減について組合員と一緒に考えています。蜜ろうラップづくりワークショップは組合員が活動するコープ委員会からも講師依頼があり、楽しみながらプラスチック問題について考える機会が広がっています。



蜜ろうラップづくりワークショップ

2) ならコープでんきを知って知らせる活動をしているならコープでんきファン倶楽部世話人会には同協議会メンバーも参加しています。ならコープでんきファン倶楽部世話人会では、ならコープでんき啓発動画作成に加えてプラスチックごみ問題啓発ツール「プラボトルのぺったん紙芝居」を制作、その紙芝居を動画にしたものを奈良県水循環・森林・景観環境部 廃棄物対策課公募の「プラ削減動画コンテスト」に応募した結果、優秀賞を獲得しました。



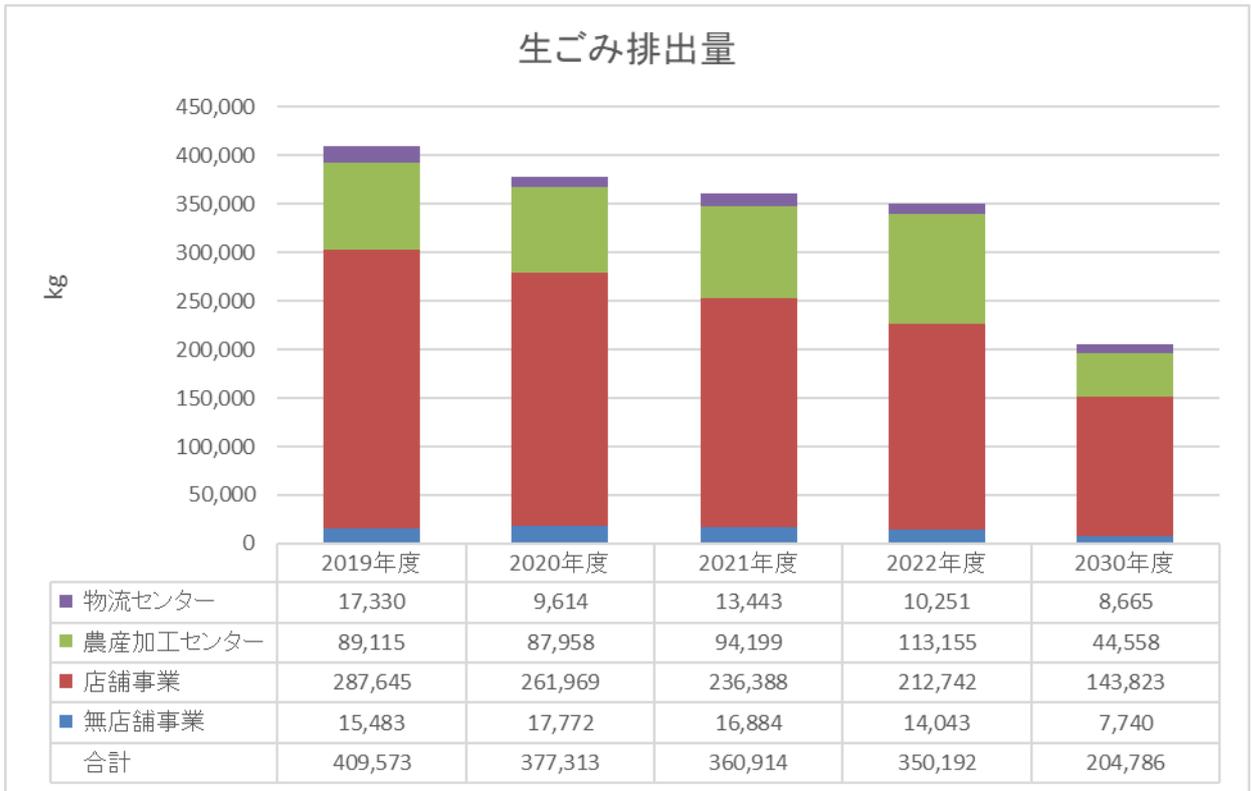
啓発紙芝居「プラボトルのぺったん」

③ 地球環境を守る取り組みでは、森や海の資源、生態系に配慮した原料で商品作りをおこなう FSC 認証¹⁰、MSC 認証¹¹マーク付きの商品の案内をすすめました。ならコープは、2022 年度

も日本生協連「コープの洗剤寄付キャンペーン」に参加、コープの代表的な商品であるセフター（洗剤）などで、供給点数 1 点につき 0.5 円を WWF ジャパンに寄付し、インドネシア領ボルネオ島での森林破壊を伴わない小規模農園による持続可能なパームヤシ生産のプロジェクトを応援することが出来ました。全国の生協全体では 3,220,275 円(2021 年 5 月 21 日～2022 年 5 月 20 日供給分)を寄付しています。

(3) 循環型社会の形成に向けた取り組み

① 廃棄物削減の取り組み



(図 5)

2018年6月以降、店舗での廃棄物の現状を把握し(どの部門からどれだけの廃棄物が排出されているか)、問題解決と作業効率を高めるために環境Navi(廃棄物計量管理システム)を導入、計量結果のデータ化により、部門ごとの廃棄量が把握でき、改善しやすくなりました。GPR 向上、ロス率改善に取り組むことで廃棄物削減に取り組んでいます。日配商品の管理期限の延長(賞味期限当日まで販売)、自動発注システムなど発注精度の向上、在庫管理精度の向上などによって廃棄物を減少させることができ、生ごみ排出量は350,192kg(前年360,914kg、前年差10,722kg、2019年度比85.5%)となりました。

- 1) 食品ロス削減は店舗の経営効率向上に貢献していますが、GPR改善、廃棄ロス金額削減だけでは廃棄重量削減につながりにくくなってきており、廃棄量に視点を置いた取り組みが課題となっています。
- 2) 店頭では「てまえどり」等のPOP掲示、もったいない市の常設設置などで「食品を無駄にしない」ことを組合員に情報提供しています。10月に農林水産省の「食品ロス削減のための消費者啓発に取り組む小売・外食事業者」に登録、食品ロス削減月間に全店舗でポスター掲示を行いました。また節分には、恵方巻のロス削減のため(株)奈良コープ産業と連携し、店舗間での振替を行うことで食品ロス削減に努めました。
- 3) 夕食宅配でお付き合いのある(株)フルックスの野菜加工工場から廃棄として出るサツマイモ・カボチャの切れ端を原料に、(株)萬成水耕栽培(就労支援B型)が冷凍野菜を生産しています。使える食材を丁寧に選別し加工した冷凍野菜



店舗の手前どりコーナー

は、ならコープの店舗や共同購入で供給をしています。地域の食品ロス軽減につながるるとともに加工工場
で働く障がい者の雇用支援にもつながっています。

- 4) 無店舗事業のキャンセル品や予備品などの在庫品、店舗の管理期限切れ商品のほかに組合員とフードドライブで集めた食材をフードバンク奈良や社会福祉法人などに提供しました。生鮮品などのキャンセル品については職員への内部販売を行い、生ごみとして廃棄する量を減少させています。店舗にて毎月実施しているフードドライブには組合員や職員有志が参加、食品だけでなく、学用品の受付も行い、必要とされている方々に配布しました。食品ロスの日の10月31日には、全店舗でフードドライブを開催し、組合員1,918人が参加、無店舗事業のキャンセル品等含め食品4,166kg 学用品638kgをNPO法人フードバンク奈良へ食品提供しました。
- 5) 生ごみリサイクルでは生ごみ排出量350,192kg(前年360,914kg、前年比97.2%)に対してリサイクル量が271,721kg(前年254,151kg)となり再生利用率は77.6%(前年70.4%)となりました(表9)。2021年度末から農産加工センターで排出する生ごみをたい肥として活用できるようになったことが要因です。また、(株)ハートフルコープならに委託してリサイクルを実施、2022年度は生ごみ18,660kg(前年25,005kg)を処理して1,866kg(前年2,500kg)の乾燥残渣を製造しました。乾燥残渣は県内の産直農産物生産者によって、牛糞などの堆肥と混ぜ、半年間の発酵期間を経過後に肥料として使用されています。

生ごみ排出量

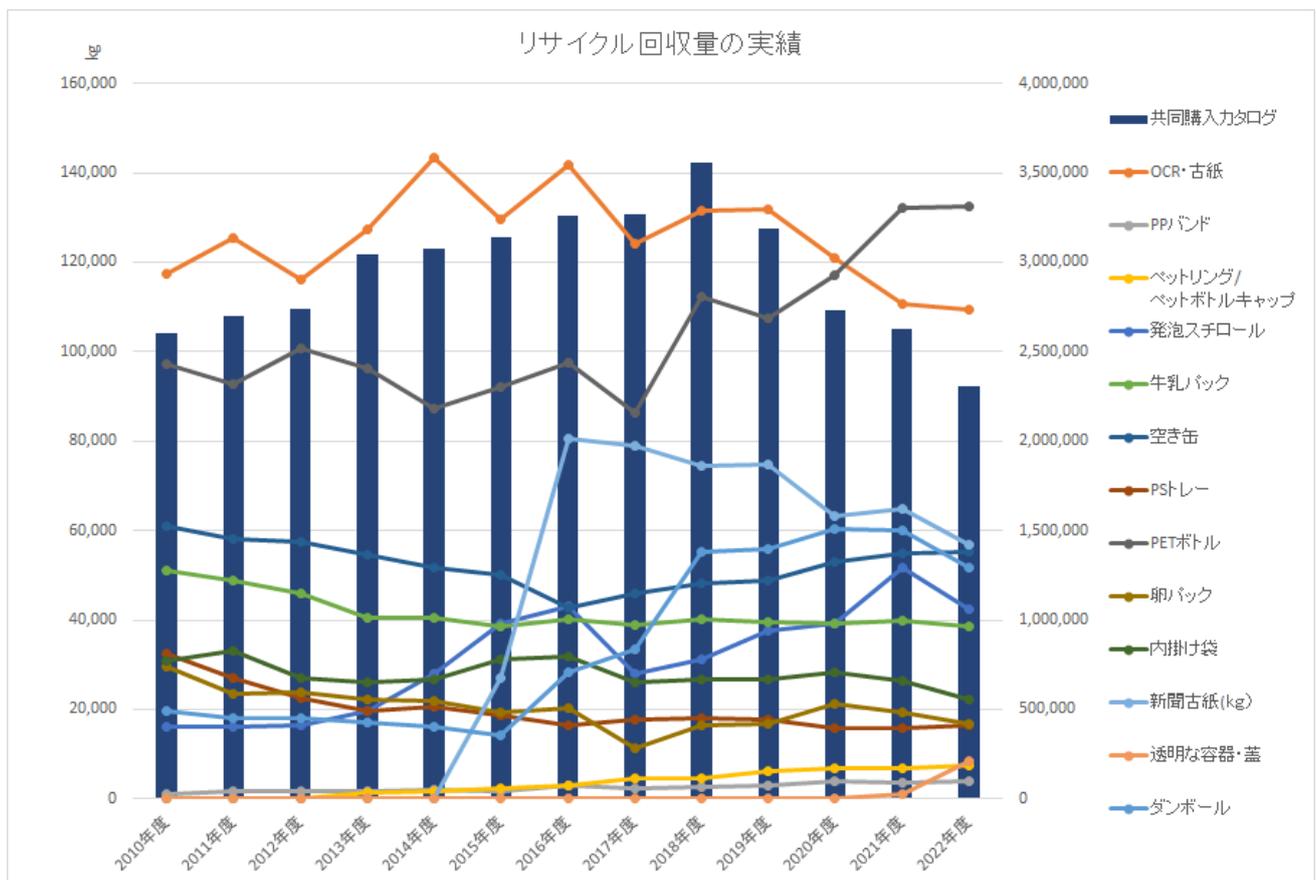
	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	生ごみ 排出量	リサイクル	生ごみ 排出量	リサイクル	生ごみ 排出量	リサイクル	生ごみ 排出量	リサイクル
無店舗事業	15,483		17,772		16,884		14,043	
店舗事業	287,645	257,619	261,969	238,580	236,388	213,606	212,742	190,041
農産加工センター	89,115	24,640	87,958	27,200	94,199	40,545	113,155	81,680
物流センター	17,330		9,614		13,443		10,251	
合計	409,573	282,259	377,313	265,780	360,914	254,151	350,192	271,721
リサイクル率(%)		68.9		70.4		70.4		77.6

(表9)

② 再資源化の取り組み～リサイクル～

リサイクル実績												単位(kg)	
品目	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ダンボール	493,900	454,930	453,860	429,660	403,220	351,770	710,940	834,100	1,377,460	1,395,721	1,511,919	1,497,682	1,292,570
前年比	96.4%	92.0%	99.9%	94.7%	93.8%	87.2%	202.1%	117.3%	165.1%	101.3%	108.3%	99.1%	86.3%
OCR・古紙	117,550	125,530	116,120	127,240	143,460	129,500	141,730	124,200	131,530	131,940	120,980	110,680	109,420
前年比	98.8%	106.8%	92.5%	109.6%	112.7%	90.3%	109.4%	87.6%	105.9%	100.3%	91.7%	91.5%	98.9%
PPバンド	995	1,625	1,645	1,665	2,055	1,875	3,136	2,385	2,643	2,985	3,902	3,742	3,831
前年比	98.7%	163.3%	101.2%	101.2%	123.4%	91.2%	167.3%	76.1%	110.8%	112.9%	130.7%	95.9%	102.4%
ペットリング/ ペットボトルキャップ	154	150	170	1,250	1,682	2,403	2,947	4,742	4,444	6,357	6,722	6,707	7,390
前年比	95.4%	97.4%	113.3%	735.3%	134.6%	142.9%	122.6%	160.9%	93.7%	143.0%	105.7%	99.8%	110.2%
発泡スチロール	16,231	16,020	16,376	19,658	28,142	39,358	43,032	27,962	31,336	37,503	39,333	51,589	42,349
前年比	112.0%	98.7%	102.2%	120.0%	143.2%	139.9%	109.3%	65.0%	112.1%	119.7%	104.9%	131.2%	82.1%
牛乳パック	51,040	48,790	45,800	40,470	40,420	38,640	40,050	38,890	40,180	39,420	39,190	39,920	38,640
前年比	96.4%	95.6%	93.9%	88.4%	99.9%	95.6%	103.6%	97.1%	103.3%	98.1%	99.4%	101.9%	96.8%
空き缶	60,890	58,050	57,385	54,490	51,720	50,110	42,890	46,027	48,037	48,707	52,945	54,757	55,256
前年比	98.8%	95.3%	98.9%	95.0%	94.9%	96.9%	85.6%	107.3%	104.4%	101.4%	108.7%	103.4%	100.9%
PSTレー	32,582	26,882	22,608	19,608	20,536	18,832	16,584	17,648	18,000	17,592	15,928	15,776	16,424
前年比	98.7%	82.5%	84.1%	86.7%	104.7%	91.7%	88.1%	106.4%	102.0%	97.7%	90.5%	99.0%	104.1%
PETボトル	97,143	92,576	100,734	96,390	87,350	92,060	97,593	86,200	112,410	107,320	117,070	132,304	132,370
前年比	95.4%	95.3%	108.8%	95.7%	90.6%	105.4%	106.0%	88.3%	130.4%	95.5%	109.1%	113.0%	100.0%
卵パック	29,669	23,391	23,795	22,365	21,980	19,395	20,175	16,525	16,888	16,888	21,240	19,224	16,680
前年比	112.0%	78.8%	101.7%	94.0%	98.3%	88.2%	104.0%	56.4%	145.3%	102.2%	125.8%	90.5%	86.8%
共同購入カタログ	2,599,175	2,700,830	2,738,710	3,039,625	3,079,135	3,137,220	3,262,990	3,266,970	3,559,200	3,185,220	2,731,010	2,627,440	2,308,910
前年比	103.4%	103.9%	101.4%	111.0%	101.3%	101.9%	104.0%	100.1%	108.9%	89.5%	85.7%	96.2%	87.9%
内掛け袋	30,896	33,035	27,165	26,025	26,613	31,128	31,882	26,109	26,694	26,849	28,253	26,433	22,273
前年比	127.4%	106.9%	82.2%	95.8%	102.3%	117.0%	102.4%	81.9%	102.2%	100.6%	105.2%	93.6%	84.3%
新聞古紙(kg)						27,000	80,530	78,890	74,580	74,760	63,350	64,750	56,740
前年比							298.3%	98.0%	94.5%	100.2%	84.7%	102.2%	87.6%
透明な容器・蓋												1,091	8,315

(表 10)



(図 10)

ならコープでは使用する容器包装をできるだけ減らすとともに、リサイクルのしくみが確立している品目については、店舗や配達を通じて組合員から回収、物流センター内にあるリサイクル施設にて分別、選別、圧縮したのちリサイクル事業者に売却しています。

- 1) 2021 年度からお弁当の蓋やサラダのトレーなどに使用される透明な容器・蓋の回収を全店舗で開始、リサイクル開始時に組合員が店頭でデモンストレーションと丁寧な説明を行ったこともあり、順調にリサイクルが進んでいます。ならコープは 1982 年からマイバッグ持参運動を展開、組合員に丈夫な買物袋を提供することで使い捨てレジ袋を削減、レジ袋使用の際には 1 枚につき 5 円の負担をお願いし、「環境資金」として環境活動に活用してきました。2022 年度のマイバッグ持参率は 93.2%と高い水準を維持し、レジ袋削減に貢献しています。
- 2) 無店舗事業で使用する商品案内カタログが多いという意見を組合員や総代からあり、無店舗事業の重要な課題です。くらしのパートナー(洗剤などの日用品カタログ)やスクロール(衣料品カタログ)のお届けを選択できる仕組みを拡大し、商品案内カタログすべての停止も可能になりました。また帳合冊子数の削減、媒体チラシの合冊を実施するなど削減に努めています。広報媒体は組合員の利便性に配慮して、紙媒体を残しながらも WEB 媒体への移行をすすめており、少しずつですが成果がでてきています。また、これまで配達時の商品荷下ろし帳票や組合員情報などは紙媒体を活用していましたが、スマートフォンに搭載した商品荷下ろし情報をもとに商品配達を実施することで紙帳票の削減と組合員サービス向上を実現しました。サイバーインシデントの影響により運用を一次中断していましたがシステム復旧に伴い運用を再開し、紙資源使用量削減につなげていきます。



透明な容器・蓋のリサイクル

3. 誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加する取り組み

私たちは、誰一人取り残さず、安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にし、地域を見守り、移動販売や配食事業といった生協の事業や活動のインフラを活用して、地域における役割発揮に努めます。

《関連するSDGsの主たる目標》



目標11(持続可能な都市)
包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

《関連するSDGsの目標》



① 吉野共生プロジェクトの推進

「吉野の森と水を守る」ための取り組みとして、奈良県森林組合連合会、JAならけん、ならコープが連携し、里山を再生する活動をおこなっています。ならコープで扱う「奈良県産ひのひかり」の利用1kgにつきJAならけんと0.5円ずつ計1円を「吉野の森と水を守るための募金」として積み立て、植樹や環境保全活動の費用に充てています。2022年度の組合員への「奈良県産ひのひかり」供給重量は894,502kgでした。2023年度「吉野の森と水を守るための募金」には894,502円(ならコープ寄付額は447,251円)を寄付する予定です。



吉野の森と水を守るための募金パンフレット

② 地域の方々と取り組む環境保全活動の取り組み

- 1) ならコープのアースデーは、環境問題について考え、行動する日として1990年から開催しています。33回目の開催となる2022年度は多くの方が環境問題を意識し楽しみながら行動できるように、6つの企画(環境川柳、清掃活動、おもちゃドクター、インスタグラム、リサイクルの展示、エコチャレンジ宣言)を開催、のべ1,291人が参加しました。



アースデー企画 環境川柳募集ポスター

- 2) 菜の花エコプロジェクトの取り組みである菜の花クラブの取り組みは2020年6月で終了しました。2020年10月から「ならっぴクラブ~チーム西畑~」と名称を変更し、生駒市西畑町の棚田をフィールドにした菜の花栽培の活動に加え、環境教育やSDGsの視点を大切にした内容を追加して、活動を開始しています。2022年度はSDGs、食品ロス啓発(手前どりのテーマちゃん紙芝居)、プラスチック削減啓発(プラボトルのペ



コープ学園前付近の秋篠川清掃

ったん紙芝居)をおこなうなど、組合員と楽しみながら学習しました。8 月には搾油した菜種油でドレッシングづくりのオンライン調理実習を実施、コロナ禍の中、工夫しながら活動をすすめました。組合員とその家族の農業や自然への関心は年々高まっており、自然体験を通じて地球にやさしい暮らし方を考える機会の提供になりました。

3) 環境月間には組合員や地域の方々ときさまざまな学習をすすめました。

(ア) プラスチック削減を考える「蜜蝋ラップづくりワークショップ」を北・中・南エリアの店舗で開催し、繰り返し使うこと、大切に使うことを学び、プラスチックを使わないくらしについて考える機会を提供しました。

(イ) 奈良市平城東公民館が企画する学習講座に講師として参加「フードロスの学習会」をおこないました。

(ウ) ならコープ店舗の店頭環境配慮型商品のクイズを設置、クイズ回答用紙と牛乳パックのコアノンロール交換会を開催し、食品リサイクルループのことやならコープでんきに関する啓発を行いました

(エ) 環境測定活動は1992年から開催しており、2022年は31回目の活動を行いました。234人の申し込みがあり、組合員モニターが家族と一緒に、大気(NO2)・河川水質(COD)・酸性雨の調査を実施、203人(昨年254人)が報告書を提出しました。環境測定活動には県立青翔中学の生徒さんたちも授業の一環として参加、ならコープの環境測定活動が地域の学校教育の現場で活用されています。

4) 2005年度からレジ袋代金の一部を環境保全活動に取り組む団体への助成金として活用しています。2022年度は19団体から申請があり、総額70.3万円を助成しました。2005年からの18年間累計では延べ340団体、計15,053,601円を助成しました。2月には環境保全活動助成団体交流会を開催し、各団体が奈良県各地で取り組んでいる活動を共有、参加者同士が交流することができました。



ならっぴクラブ 参加者との学習風景



平城東公民館 フードロス学習会



環境配慮商品クイズ(ディアーズコープいこま)



環境測定活動

- 5) 毎年秋に組合員と職員がテーマを決めて学習する組合員のつどいでは「ひとりひとりの選択が未来を変える～エシカル消費2022～」と題し学習をすすめました。11月10日(木)SDGsを推進する店舗であるコープ真美ヶ丘のイトインコーナーにて「コーヒーとエシカル消費学習会」を開催、淹れたての「有機コーヒー」を楽しみながら、参加組合員8名とエシカル消費の大切さと商品の美味しさと魅力を学びました。



コーヒーを選べば世界が変わる学習会

③ 自然災害等ヘリスク対応

- 1) 奈良県とならコープは県民の緊急時飲料水の寄託契約を締結しています。(株)ハートフルコープよしのが製造する奈良桜よしの天然水を緊急時飲料水として一定量を保管管理しながら事業活動で使用していくローリングストック¹²の手法をとることで廃棄や保管場所問題に対応、奈良県の防災に協力しています。
- 2) 職員には県内道路の冠水ポイントを明示し配達や出退勤時の水害リスクへの備えを啓発、事業所毎に脆弱点を見出すことでBCP¹³の一律的な決め事からの脱却が生まれつつあります。ならコープでは電気自動車を54台(ハイブリッド車含む)、燃料電池車(水素自動車)1台を保有、災害時に発生する停電の際には必要とされる地域へ電気を移動させることが可能です。
- 3) 近年、自然災害による停電時の電気の重要性が共通認識になりつつあります。そのことから2019年度になら一歩無店舗事業の配送委託先である一般社団法人かわかみらいふ(川上村)に設置した災害時の電源として蓄電システムを公民館等へ設置することを各自治体に提案しています。天理市は2022年3月「天理市立南中学校電力購入契約(PPA)による太陽光発電設備導入事業」の実施事業者を公募、(株)コープエナジーならが同事業を受託しました。2022年12月～3月に施工完了し、CO₂ゼロの電力の供給を開始しました。又、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ宣言」をしている田原本町と2022年8月に包括連携協定を締結。2023年2月、田原本町は環境省が公募する脱炭素先行地域への応募に際し、ならコープは共同提案者として地域の企業(奈良中央信用金庫、トラストバンク(株)、奈良県)とともに参加しました。2023年度にゼロカーボンシティ宣言をする準備をすすめている奈良市からも、環境省が公募する「地域脱炭素移行・再エネ推進事業実施計画(重点対策加速化事業)」に応募するにあたり、ならコープグループに協力要請があるなど、自治体の脱炭素に向けた動きとならコープとの連携が活発化しています。

第13次中計アクションプラン

該当する 対策	2030年環境ビジョン 数値目標	実績 (基準年)	目標 (2030年)	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	第13次中計の取り組み
地球温暖化対策	CO ₂ 排出量 50%削減 (2050年に実質ゼロ)	13,566 t-CO ₂ (2013年度)	6,783 t-CO ₂	9,960 t-CO ₂	9,840 t-CO ₂	9,500 t-CO ₂	9,000 t-CO ₂	8,140 t-CO ₂	【中計目標 40%削減】(CO ₂ 排出係数 2020年実績 0.270t-CO ₂ 据置) 《化石燃料削減》 宅配推進部_全車両 EV 化 (移動店舗除く) (総数 32 台 (移動店舗 5、夕宅・あったか便 (EV14・ガソリン 13)) 無店舗事業_EVトラック 20 台入替 (22年_5台、23年_5台、24年_10台) 無店舗事業_全営業車両 EV 化 (軽トラック除く) (総数 64 台 (軽トラック 14、営業 (EV22、ガソリン 28)) 総務企画部_全車両環境対応化 (買い物バス 1、農産集荷 5 除く) (総数 8 台 (EV3、PHV1 台、水素 1、ガソリン 3)) 物流センター_全車両 EV 化とバル物流との往復燃料削減 (総数 2 台 (ガソリン 2)) 《電気使用量削減》 ・改装時の省エネ設備導入による電気使用量削減 (コープ学園前、ディアーズコープたつたがわ、コープおしくま) ・自家消費型太陽光発電設備設置による CO ₂ ゼロの電気使用 (旧農産加工センター、新ドライ棟、コープ学園前他)
	再生可能エネルギー発電量を 1,300 万 kWh「つくる」	57 万 kWh (2013 年度)	1,300 万 kWh	629 万 kWh	700 万 kWh	750 万 kWh	850 万 kWh	1,000 万 kWh	《 <u>県</u> コープエナジーならによる発電事業》 ・21年_C学園前(249kW)、旧農産加工センター (131kW) ・24年_物流センター (新ドライ棟 (726kW)) ・小水力発電 1 か所 《市町村との防災目的の蓄電システム導入による発電量増》 ・22年以降_1市町村 10 か所×20kW/毎年 1 市町村
	電気使用量を 1,500 万 kWh まで「減らす」	1,674 万 kWh (2013 年度)	1,500 万 kWh	1,716 万 kWh	1,629 万 kWh	1,550 万 kWh	1,550 万 kWh	1,500 万 kWh	《店舗改装・リニューアル》 21年_C学園前改装▲15 万 kWh、C みみなし▲11 万 kWh 22年_DC たつたがわ改装▲20 万 kWh (年間▲39 万 kWh)、C 学園前効果 23年_C おしくま改装▲25 万 kWh (年間▲50 万 kWh)、DC たつた効果 24年_物流センター (新ドライ棟) 稼働+100 万 Wh、バル物流▲130 万 ※EVトラックの電気使用量増は省エネ・再エネ利用の取り組みと相殺する
	ならコープでんき CO ₂ 排出係数を「減らす」	0.522kg-CO ₂ (2013 年)	0.170 kg-CO ₂	0.314 kg-CO ₂	0.270 kg-CO ₂	0.270 kg-CO ₂	0.270 kg-CO ₂	0.270 kg-CO ₂	22年_小又川小水力発電所再稼働など再エネ電源拡大 エネサーブとの電源構成協議 CO ₂ ゼロでんき開発を検討
	組合員が「つくる」再生可能エネルギー調達量を増やすエネルギーの地産地消	0kWh (2013 年)	200 万 kWh	24 万 kWh	70 万 kWh	150 万 kWh	250 万 kWh	350 万 kWh	組合員から再エネ電源を調達する。エネルギーをみんなで分け合う社会の実現
	ならコープでんき利用数増、家庭排出 CO ₂ 削減	0 件 (2013 年)	12,000 件	4,714 件	7,000 件	8,000 件	9,000 件	10,000 件	
	奈良県の 1 人あたり CO ₂ 排出量の削減	5.2t-CO ₂ (2013 年)	2013 年度より 低減する	未集計					

該当する 対策	2030年環境ビジョン 数値目標	実績 (基準年)	目標 (2030年)	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	トピックス
廃棄物削減	食品廃棄物を50%削減	409,573kg (2019年)	204,786kg	368,616kg	331,754kg	315,166kg	299,407kg	286,701kg	【中計目標 30%削減】 刺身等の添え物削減 管理期限変更による廃棄量削減 発注等商品管理における売り切り フードバンク寄付仕組化、冷凍供給商品の研究 窒素充填など消費期限延長の取り組み 農産廃棄量の削減、農産加工センター廃棄量削減、再資源化 値引きロス商品の新たな販売方法
	プラスチック容器包装使用量を30%削減	209,818kg (2018年)	146,872kg	未集計	200,000kg	200,000kg	200,000kg	188,836 kg	【中計目標 10%削減】 無店舗事業の打掛袋削減の研究の開始（洗浄、形状変更、素材変更） 物流センター（新ドライ棟）稼働によるドライ・パン・日用品同梱化 青コンテナ洗浄による打掛袋使用数削減（紙シートでの代用など） レジ袋紙化、 レジ配布物の脱プラ化（スプーン、ストロー、箸） 農産加工センター加工のサラダ等へのプラ使用量減、再生プラ使用増

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
1978	11	合成洗剤に含まれるトリポリリン酸塩等による赤潮が社会問題化する中で、「奈良の河川と瀬戸内海の汚染を防ぐ洗剤対策の一層の強化を求める請願」署名(57,411人)
1979	1	同請願署名が県議会で採択
1982	12	コープ六条開設準備中に組合員の提案による「マイバッグ(お買い物袋)」が実現 その後全店に広がった
1989	4	「CO-OP・EVコープ低公害車開発株式会社」に参画
1990	5	「アース・デー・スプリング in なら '90(物流センターにてパネルディスカッション)」開催(第1回)
	7	第1回牛乳パック回収(カートンクラブによる集団回収)
	11	物流センターに発泡スチロール溶融機を導入
1991	5	総代会で「事業高の1000分の1を環境資金として運用」することが確認され、運用を開始
	11	「ならコープ環境基本政策」策定
1992	5	ブラジルで開催された「環境と開発に関する国際連合会議(地球サミット)」に組合員と役員の3名を代表派遣
		河川の水質、大気汚染、酸性雨を測る環境測定活動の開始
	10	全国リサイクル推進協議会会長賞受賞
1993	3	空き缶回収機くうかん鳥を全店設置
	5	第1回PETボトル実験回収
1994	2	アルミ缶回収協力者賞(筆頭表彰を受賞)
	7	回収トレーを再生した1.3kg入り卵容器「まもるくん」を開発
	8	北部支所と香芝支所に、NOX(窒素酸化物)の排出が少ないCO-OP・EVコープ低公害車開発株式会社のLPG(液化石油ガス)トラックを計2台導入
1996	3	中央環境審議会「環境基本計画公開ヒアリング」にならコープの活動と意見を発表
1997	2	共同購入の産直たまごパック10個入りのPETを原料にした仕様に変更
	6	環境庁の「地球環境功労者表彰」受賞
	7	ISOに準じたマネジメントの構築を目指しリサイクル・環境マネジメント推進委員会発足
	8	NPOや事業者等奈良県の30団体が加入する奈良環境県民フォーラムが発足・参画。
	11	PETボトル中間処理施設をコープセンターに設置
	12	地球温暖化防止京都会議(COP3)NGO集会に参加
1998	7	店舗での塩ビ系食品ラップの供給中止(1990年業務用ラップ、1998年2月共同購入ではすでに中止、ならコープでの塩ビ系食品ラップの取扱いは全面中止)
	10	奈良県環境県民フォーラムが主催し、ならマイバックキャンペーンを実施、ならコープは「マイかご」も導入
	11	全店に「マイかご」導入

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
1999	11	回収した商品カタログを商品カタログに再生するクローズドリサイクルシステムを開始(共同購入カタログのリサイクル)。
2000	7	奈良県環境保全功労賞を受賞
2001	1	食品リサイクル法 4 月施行対応として、独自に生ごみを堆肥化する「生ごみ処理機」をコープ六条に導入
	12	環境基本政策策定から 10 年を経過し、新環境政策を策定
2003	3	ISO14001 認証取得(環境管理の国際規格)
	5	無店舗事業の内掛袋のリサイクルを全支所でスタート
	7	コープきんき事業連合創立総会
	10	リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞受賞
2004	3	あすなら苑太陽光発電開始
	8	コープ学園前に農産直売所を開設し、地産地消による環境負荷低減の取り組みを開始
	9	太陽光発電幹線事業開始
2005	5	環境活動に取り組む NPO や団体を支援するため、環境保全活動助成金を開始
2006	6	ならコープの配達トラックのバイオディーゼル燃料(BDF)による実験走行
	8	菜種から搾油した油を回収し、廃食油を原料にバイオ燃料を精製する菜の花エコプロジェクトの取り組みをスタート
	11	ISO9001:2000 認証取得
2007	3	生駒市環境地域協議会が設立し参画
	7	西奈良支所にバイオディーゼル給油タンクとトラックを 5 台導入
	9	店舗のレジ袋代金のレジ精算方式を全店導入
	11	NPO が選ぶ CANJAPAN 第 1 回 CSR プラス大賞の「地域の CSR 大賞」受賞
	12	西奈良支所に太陽光発電を設置
2008	4	組合員ボランティアによる廃食油の定期回収が始まる(ディアーズコープたつたがわ)
		電力削減プログラム「見えタロー」をディアーズコープいこま・コープ学園前に導入(以後、コープおしくま・コープたかだ・ディアーズコープたつたがわに導入)
	9	コープたかだに農産直売所が開設され、全店に開設
	10	奈良市地球温暖化対策地域協議会が設立し参画
2009	1	生駒市環境地域協議会「ECOMA」と「レジ袋削減に向けた取り組みに関する協定」締結
	11	JA ならけんとならコープで、県内産ひのひかり 1kg につき 1 円を積み立て、植林等に活用する「吉野の森と水を守るための募金」創設
		大和高田市地球温暖化対策地域協議会が設立し参画

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
	12	デンマークで開催された国連気候変動枠組み条約第 15 回締約国会議(COP15)に組合員代表を派遣
2010	1	経済産業省公募事業の「ロボットによる多種類プラスチック分別回収リサイクル装置開発と COOP での実証」にディアーズコープいこまで実験。
	3	「吉野の森と水を守るための募金」により吉野町の脳天大神所有地に広葉樹 160 本を植樹
	7	コープみみなし天井照明を約 500 本 LED 照明に入れ替え実施
	10	生物多様性年並びに COP10 の名古屋開催にあたり、学習や里山観察会を実施
		コープ学園前で使用済み天ぷら油の定期回収が開始され、全店舗で回収実施
2011	6	ディアーズコープたつたがわ天井照明約 840 本を LED 照明に入れ替え実施
	7	コープ朱雀天井照明約 660 本を LED 照明に入れ替え実施
	8	恋の窪本部の蛍光灯約 270 本を LED 照明に入れ替え実施
2012	2	2020 年に向けたならコープのあらたな環境政策の策定
	7	物流センターへの太陽光発電設備の設置(385kW)。既存の自家発電設備と連携したハイブリッド発電システムとして大規模災害の電力崩壊リスクの軽減
	9	安心して住める福島を取り戻すための署名 12,836 筆を日本生協連に送付
		ディアーズコープいこま、コープ学園前の LED 照明に入れ替え
	6	食べる“なら”大和 金胡麻入りくろずドレッシングの開発
	11	産直たまごピンクへの飼料米の飼料投与(2ヶ月)
	10	コープみみなし、コープ真実ヶ丘の食品残渣を肥料化する資源循環型農業に取り組んでいる(株)サムズファームとの取引開始
		無店舗事業でのバイオディーゼル車両 5 台増車し、30 台での運用
	11	(株)CWS天理本社に太陽光発電設備(95kW)を設置
		新環境政策紙芝居を活用した出前学習の実施。
	6	あすなら塾で久隆浩近畿大学教授を講師に「2020 年に向けて私たちに何が出来るの？」を開催。
7	吉野の森と水を守るための募金を活用し、大淀町に 4 種類の広葉樹 80 本を植樹、105 人が参加。	
2013	2	中エリアで奈良県産金ごま入り大和のあられ開発
		南エリアで奈良県産金ごま使用ごま団子開発
	5	ディアーズコープたつたがわ省電力型冷ケース導入
	6	ディアーズコープいこまで食育・環境フェア開催
	9	ならコープ容器包装指針を変更
	11	南部地域産業振興推進大会「なんゆう祭」に参加
	12	市民・地域主導による再生可能エネルギー普及学習会

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
2014	2	エネルギー政策を策定
	3	東吉野村「つくばね発電所」復活に災害支援積立金から寄付金贈呈
	4	奈良県エコキャラクター「な～らちゃん」付きの米粉入り食パン販売を開始、利用1点につき1円を奈良県環境県民フォーラムに寄付、県内環境保全活動に貢献
		本部建替えに伴いLED照明、人感センサー導入による省エネ施設化
	6	市民共同発電所「恋の窪未来発電所@ならコープ」発電開始
	10	田原本支所太陽光発電設備(273kW)を設置
	11	コープおしくま、コープたかだのLED照明に入れ替え
2015	1	東吉野水力発電株式会社設立され、(株)CWSが資本参加
	3	水源地の村・川上村「未来の風景づくり」開始。
		農産加工センターの食品残渣を乾燥し、産直生産者が堆肥原料として活用開始
		三菱自動車よりアウトランダー PHEV 寄贈を受ける
	6	発電事業を目的にした子会社(株)コープエナジーなら設立
		コープいまごのLED照明に入れ替え
	7	(株)コープエナジーならが桜井支所 53kW、西奈良支所 53kW、コープみみなし 248kW、ディアーズコープたつたがわ 365kW、コープ朱雀 256kW に太陽光発電設置
	8	店舗でクールシェア実施
12	木質ペレットを燃料とするペレットストーブを奈良県の補助を受け、本部に設置	
2016	3	田原本物流センター東棟開設
		田原本支所にBDF車両18台導入し、合計63台で運用
	5	吉野にある竜門岳付近で採水した天然水を使用した宅配水事業(奈良桜よしの天然水)、水耕栽培、農産集荷拠点として吉野事業所を開設。
	8	吉野事業所に太陽光発電設備を設置(全量売電 890kW、自家消費 12kW)
	9	太陽光発電収益の一部を寄付し、再エネ協同基金を創設し、基金を管理する(一財)再エネ協同基金を設立
	11	コープなんごうオープン。冷凍冷蔵ショーケースに自然冷媒(CO ₂)を使用、LED照明、太陽光発電設備の設置と発電した電気を店内で使用することで電気使用量の削減行う環境にやさしい店舗として開設
	12	(株)CWSが小売電気事業に参入し、ならコープ事業所への電気供給を開始
本部事業棟に太陽光発電設備設置(自家消費 49kW)し、災害時に活用できるように蓄電池をあわせて設置		
2017	1	コープなんごう太陽光発電開始(自家消費 308kW、全量売電 61kW)
		ディアーズコープいこまにて使用済天ぷら油回収作業軽減としてペットボトル回収開始
		「奈良の木」を使用した贈り物開発プロジェクトへの参加
	4	組合員への電気供給「ならコープでんき」開始

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
	6	環境月間にオールド冷蔵庫コンテスト開催。1974 年生冷蔵庫がグランプリ
	7	環境学習会「SDGs(持続可能な開発目標)ってなに？」～再生可能エネルギーの普及で持続可能な社会をめざそう～」を開催。
		東吉野水力発電(株)により復活した「つくばね発電所」が 54 年ぶりに発電を開始
	9	コープ学園前、コープ朱雀、コープおしくまの 3 店舗について環境省の補助事業を活用し、省エネポテンシャル診断実施。
	10	組合員のつといででの「エシカル消費」学習とエシカル月間に取り組む
	11	コープ七条オープン。冷凍冷蔵ショーケースに自然冷媒(CO ₂)を使用、LED 照明、太陽光発電設備の設置と発電した電気を店内で使用することで電気使用量の削減行う環境にやさしい店舗として開設
2018	1	つくばね発電所の電気をならコープでんきの電源として組み入れ、組合員に供給開始。
	2	コープ七条太陽光発電開始(自家消費 313kW)
	5	ならコープ with ローソン真美ヶ丘店太陽光発電設置(自家消費 66kW)
	6	第 46 回通常総代会において「コープ SDGs 行動宣言」を組合員と確認
		コープいまごりリニューアルオープン。冷凍冷蔵ショーケースに自然冷媒(CO ₂)を使用、電気使用量の大幅削減を実現し、環境にやさしい店舗として開設
		環境月間にオールドエアコンコンテスト開催。1976 年製エアコンがグランプリ
		環境 NAVI(廃棄物計量管理システム)を導入
	8	熱中症予防の呼びかけとともにならコープでんき契約者全員に、8 月度の電気料金を一律 5%値引き実施
	9	コープふれあいセンタ六条のスペースをフードバンク奈良の食材提供拠点として提供
ならコープでんき利用者の 86 人がエネルギーの産地である「つくばね発電所」を見学し、エネルギーの地産地消について学習		
ディアーズコープいこま、ディアーズコープたつたがわ、コープみみなしの 3 店舗について環境省の補助事業を活用し、省エネポテンシャル診断実施。		
2018	10	下北山村の村づくりに関する包括連携協定を締結
		組合員のつといでならコープの取り組みと SDGs との関係についてみんなで学ぶ機会をつくり 4,452 人の参加
		コープ七条、コープ朱雀では SDGs お買い物ラリー実施
	12	本部事務棟の屋根を地域の環境団体(一社)地域未来エネルギー奈良に貸借し、発電した電気を CO ₂ ゼロの電気として購入開始。
2019	1	下北山村の小又川発電所更新プロジェクト更新工事開始
	2	小又川発電所更新資金の一部を社会投資ファンドで募集を開始
	3	BDF 車両を経年劣化や故障頻度増加により 8 台減車し、46 台になる
		ペットボトル、食品トレーリサイクルのエフピコ(株)を組合員、店舗職員が見学

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
	4	米粉入り食パン廃盤にともない、2018 年度からは(株)ハートフルコープよしのが製造する「桜よしの天然水 8Lボトル利用 1 点につき 1 円を積み立て、奈良県環境県民フォーラムに寄付を開始。
	5	店舗の冷蔵冷凍ショーケースの清掃を開始。
	6	2030 環境ビジョン策定会議キックオフとして NPO 法人環境市民下村伊都子氏による学習会を開催
	11	(株)CWSが提供するならコープでんきは、太陽光発電で発電した電気を一定価格で買い取る制度である固定価格買取制度(以下FIT制度)の買取期間が終了する組合員からの買取方針を確定し、2019 年 11 月から組合員宅の屋根の太陽光発電の買取を開始
2020	2	コープいまご太陽光発電設置(自家消費 108kW)
	3	(一社)かわかみらいふに(株)コープエナジーならが蓄電システム導入(5kW)。発電した電気はかわかみらいふが自家消費するとともに蓄電池に貯め災害時に備える。余剰電力はならコープでんきの電源に活用。(株)CWS が運営する葬儀会館ここ和 に蓄電システム導入(自家消費 5kW)
	5	下北山村との協働により更新した水力発電所 小又川発電所が発電開始(197.7kW) 店舗で漬け物や豆腐、畜産、水産商品のレジでのポリ袋入れサービスを廃止
	9	ならコープの 2030 環境ビジョンを策定。CO ₂ 50%削減、食品ロス 50%削減、プラスチック容器包装 30%削減する。
	10	気候ネットワーク広瀬和代氏を講師に招き「エネルギーを選んで災害を減らそう！かんたん、おいしい、防災クッキング～」を開催、15 人(うちオンライン 8 人)
	12	奈良県は「奈良県環境総合計画(2021-2025)(案)」に対する意見を募集、ならコープと(一財)再エネ協同基金が意見を提出。
2021	2	コープみみなし改装。傘のしずく取り機を実験導入。
	4	下市ステーション開設。太陽光発電(19.4kW)と蓄電池(4kWh)、EV バッテリーから施設に給電できる V2H(Vehicle to Home)を設置。 水素自動車のトヨタ MIRAI、電気自動車の日産リーフを導入。環境配慮型車両(水素自動車・電気自動車・プラグインハイブリッド車)は合計 54 台に。
	5	コープいまごでは冷蔵・冷凍ショーケースおよび空調の室外機に省エネ機器コンティニュームを設置
	6	コープみみなしにて透明な容器・蓋の実験回収開始
	8	天川村は「令和3年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(再エネの最大限の導入の計画づくり及び地域人材の育成を通じた持続可能でレジリエントな地域社会実現支援事業)に係る補助事業」の事業者を公募、(株)コープエナジーならが採択される。
	11	奈良教育大学副学長の藤井智康教授とエフコープ組合員活動部を講師に迎え「環境測定活動 第 30 回記念講演会」を開催。

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
	12	奈良県の補助金「令和3年度地域エネルギー資源活用支援事業」を活用して一般財団法人 再エネ協同基金が薪ストーブを設置
2022	2	新電力各社への負担増が消費者の不利益につながることから「容量市場制度の見直しを求める意見」を経済産業大臣 萩生田光一氏、環境大臣 山口壯氏宛てに提出。 傘のしずく取り機全店導入。
	3	コープ学園前リニューアルオープン。省エネ機器導入により 28%程度の電気使用量削減に合わせて太陽光発電も設置。
		透明な容器・蓋の回収を全店で実施。 天理市は 2022 年 3 月「天理市立南中学校電力購入契約(PPA)による太陽光発電設備導入事業」の実施事業者を公募、(株)コープエナジーならが同事業に応募。 コープ学園前改装、省エネ型冷蔵・冷凍ショーケース、太陽光発電設備(自家消費)導入。
		環境省「令和3年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」を活用し旧農産加工センターに太陽光発電(131.04kW)をおひさま PPA(株)が設置、旧農産加工センターは他企業への賃貸中であることから、発電した電気は旧農産加工センターでは使用せず、送電線にて物流センターまで託送し、電気を使用するオフサイト PPA という新しい事業モデルで導入。
	4	「天理市立南中学校電力購入契約(PPA)による太陽光発電設備導入事業」の実施事業者に(株)コープエナジーならが採択される。
	5	コープなんごうに空調のエネルギー効率改善につなげる静電気除去シートのコンティニューム設置。
	7	映画ウエンデ実行委員会による映画「ウエンデ～光と水のエネルギー～」を奈良県文化会館と橿原文化会館で開催し、延べ 146 人が参加。
	7	小型 EVトラック ELEMOMO(HW-ELECTORO 社)納車。同 10 月に組合員 吉村恵さんによるデザインをラッピングし、あったか便配送車両としてコープ学園前に配車。
	10	サイバーインシデントにより内部データが暗号化され、事業活動に大きな影響が出る。無店舗事業では 5 週間配送停止する事態になる。
	12	再エネ 100 宣言 RE Action に登録。2035 年に事業活動で使用する電力を再エネ 100 で運用を社会に宣言。
	2	コープ七条に空調制御システムであるエナツジ air 導入。
	3	奈良県廃棄物対策課が公募した「プラスチック削減動画コンテスト」に応募した「プラボトルのべったん動画」が優秀賞を受賞 (株)コープエナジーならによる「天理市立南中学校電力購入契約(PPA)による太陽光発電設備導入事業」完成。 コープ朱雀、コープ学園前、コープみみなしに空調のエネルギー効率改善につなげる静電気除去シートのコンティニューム設置

用語解説

¹ サイバーインシデント

2022年10月9日(日)外部からのサイバー攻撃により、ならコープが保有しているデータが暗号化されたことにより発生したシステムトラブルのこと。データの復元に時間を要し、無店舗事業の商品供給を7週間にわたり中止するなど、ならコープ創立以来の最大の危機に陥る事態となった。

² 関係企業(おひさまPPA株式会社)

発電事業を目的にカジノン株式会社、おひさまエナジーステーション株式会社の出資により設立された法人。カジノン株式会社、おひさまエナジーステーション株式会社はならコープ店舗および支所への太陽光発電設備設置を実施した協力会社である。

³ オフサイトPPA

再エネ電源の所有者である発電事業者(ディベロッパー、投資家等含む)と電力の購入者(需要家等)が、事前に合意した価格及び期間における再エネ電力の売買契約を締結し、需要地ではないオフサイトに導入された再エネ電源で発電された再エネ電力を、一般の電力系統を介して当該電力の購入者へ供給する契約方式

⁴ バイオディーゼル燃料

菜種油、ひまわり油、大豆油、コーン油などを原材料としてメタノール(メチルアルコール)と触媒でエステル化してグリセリンを分離除去して、動粘度を軽油の2倍程度まで下げた液体燃料のこと

⁵ (株)コープエナジーなら

発電を目的に2015年に設立した、ならコープの子会社

⁶ V2H((Vehicle to Home)

電気自動車に搭載されている蓄電池から家の中に電気を送るための装置。自動車から家へを意味する「Vehicle to Home」がV2Hという名前の由来。

⁷ 再エネ100宣言 RE Action

企業、自治体、教育機関、医療機関等の団体が使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示し、再エネ100%利用を促進する新たな枠組み。

⁸ 奈良県環境県民フォーラム

環境保全活動を積極的に行っている県民団体や企業等で構成し、相互の意見や情報交換を通じてそれぞれの団体等の活動をステップアップするとともに、環境保全活動の先導的役割を果たすことを目的として平成9年8月に発足。

⁹ マイクロプラスチック

直径5ミリメートル以下の小さなプラスチックのこと。

¹⁰ FSC 認証

持続可能な森林活用・保全を目的として誕生した、「適切な森林管理」を認証する国際的な制度。認証を受けた森林からの生産品による製品にはFSCロゴマークがつけられる。

¹¹ MSC 認証

MSC(Marine Stewardship Council:海洋管理協議会)の厳格な規格に適合した漁業で獲られた持続可能な水産物にのみ認められる証、MSCロゴマークがつけられる。

¹² ローリングストック

普段の食品を少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し消費した分を買い足すことで常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法。

¹³ BCP

事業継続計画のこと。災害などの緊急事態が発生したときに、企業が損害を最小限に抑え、事業継続や復旧を図るための計画。